

# 第 82 回日本臨床外科学会総会

## <ビデオワークショップ> (公募・一部指定)

### 1. 直腸脱に対する手術選択と工夫

超高齢化社会を迎え、直腸脱に遭遇する機会は増加してきている。経肛門的手術と経腹的手術を基本に多くの術式が行われているが、術後の再発や肛門機能などに注意を要する。本セッションでは、直腸脱に対する各施設での手術術式の選択・工夫、治療成績、問題点と今後の展望について幅広く論じていただきたい。

### 2. 大腸憩室炎に対する腹腔鏡下手術

本邦における大腸憩室保有率が上昇し、手術を要する大腸憩室炎患者が増加してきた。近年、低侵襲手術の進歩によって大腸憩室炎による狭窄、瘻孔膿瘍形成症例さらに穿孔症例に対しても腹腔鏡下手術を行う施設が増えてきているが、組織の繊維化による剥離困難症例や他臓器合併切除を要する症例など、難渋症例も少なくない。本セッションでは、各施設における大腸憩室炎に対する腹腔鏡下手術の適応と困難症例に対する工夫など討論していただきたい。

### 3. 下部直腸癌に対する最新の治療

近年、下部直腸癌に対する手術として開腹 / 腹腔鏡、TaTME、TpAPR、TAMIS、Robot など様々なアプローチが選択可能となってきた。また、3D-CT、ICG など様々なナビゲーション技術も発展してきた。各施設での下部直腸癌に対する最新の工夫を盛り込んだ手術をビデオで供覧いただき、継承と創造について討論していただきたい。

### 4. 肝胆膵領域における Reduced port 手術の工夫と展望

胆嚢疾患では以前から RPS を行う施設は多い。しかし、胆摘以外の肝胆膵領域ではその高難度性から、いまだ普及していないのが現状である。本セッションでは肝胆膵手術における RPS の適応や工夫について論じていただきたい。

### 5. 若手外科医に伝えたい腹腔鏡下胆嚢摘出術のピットフォール

腹腔鏡下胆嚢摘出術(ラパコレ)は、腹部外科のなかで施行数の最も多い術式の一つであり、若手外科医が最初に執刀する手術である。しかし、解剖学的変異や高度炎症症例にも遭遇することも多く、胆管損傷や出血などの合併症もみられ、細心の注意をはらって行う手術であることは変わらない。今後、若手外科医に伝授すべき内容を討論していただきたい。

## 第 82 回日本臨床外科学会総会

### 6. 尾側膵切除における膵断端処理の工夫

尾側膵切除術の切離法や断端の処理法に関しては、様々な手術手技の工夫やデバイスの改良などが行われているが、未だ最良の方法は明らかとなっていない。本セッションでは、各施設が行っている膵切離・断端処理の手術手技の動画とその成績を提示していただくとともに、膵液瘻低減のための注意点やポイントを、その根拠とともに示していただきたい。開腹手術および腹腔鏡手術のいずれの手術手技に関する演題も募集する。

### 7. Stentgraft-Endoleak workshop 私のエンドリーク予防法：手技と成績

ステントグラフト治療が一般化された現在において、中・遠隔期でのエンドリークは患者の予後を規定する重大因子である。そのエンドリークを予防する方策、あるいはエンドリークを起こした症例の対応について、各施設の工夫などを提示いただきたい。

また、意図した結果が得られなかった、あるいは治療に難渋した症例なども歓迎する。

### 8. Reduced port 手術の工夫と展望(消化管)

近年の Reduced port 手術の発展は、消化管領域にも及んでいる。その実施に際しては、従来法を凌駕する低侵襲性に加え、根治性と安全性が求められている。本セッションでは、消化管領域に対する Reduced port 手術への挑戦とその治療成績を提示していただき、その工夫と今後の方向性について論じていただきたい。

### 9. 末梢血管に対する手術治療の工夫

昨今の診断・治療デバイスの発達により、末梢血管領域の手術（術式・適応）にも変化が見られる。治療成績の改善を目指し、診断・手術手技の実際を供覧するとともに、それらの有用性・課題を検討していただきたい。